

UN Women プロジェクト着手式  
福島大使発言 日本語(4月5日(金))

本日は、UN Women のプロジェクト開始式典でご挨拶できることを誠にうれしく思います。この LEAP, Leadership, Empowerment, Access and Protection が今般、こうして実施にこぎつける事ができたのは世界各国での日本との共働関係が長く、本事業の理想的なパートナーである UN Women のご尽力によるものであり感謝いたします。また、パナマでは女性省を創設し政府を上げて女性の保護、女性の活躍を支援しているとともに、非正規移民への支援を行っていることに敬意を表します。

中米各国は、自由、民主主義、人権及び法の支配といった価値と原則を共有する我が国の重要なパートナーであり、中米移民問題は、人道・社会的側面から地域の安定に影響する重要な課題です。昨年、ダリエンを超えてきた非正規移民の数は約52万人という記録的な数でしたが、本年に入ってそのペースはさらに加速しており、憂慮されます。そしてそれら移民のうち特に女性や子供たちの人道状況が深刻なリスクに直面しています。食料、水、保健などの基礎的なニーズへのアクセスが限定的であるのみならず、性的な暴力や人身取引などの犯罪の脅威に彼らはさらされており、より集中的で効果的な対応が喫緊にもとめられています。これにはパナマをふくむ当事国だけでなく、国連や関連機関、そして日本のようなパートナーたちが力を合わせて取り組む必要があります。

日本は主要外交政策の一つとして、2000年の国連決議に基づくWPS(Women, Peace and Security)を推進しています。これは、女性自身が指導的な立場に立って紛争の予防や復興・平和構築に参画することで、より持続可能な平和の実現に近づくことができるという考えに基づく政策です。

昨年12月に開催された第2回グローバル難民フォーラム(the Second Global Refugee Forum)には、日本から上川外務大臣が参加し、難民・避難民の中でもとりわけ脆弱な環境に置かれているのが女性と子どもであり、WPSの考え方は、難民・避難民への対応を考える上で欠かせないものであると述べました。また、2月23日、パナマを訪問した上川外務大臣がコルティソ大統領と会談を行い、WPSを含むジェンダー平等の重要性について認識を共有し、一層の連携を確認したところです。さらに、その際上川大臣が発表した日本の「中南米外交イニシアティブ」の下、ジェンダー平等を含めた国際社会で重要性を増すテーマについて中南米諸国と連携していきます。

こうした観点から、日本政府は約210万ドルを拠出し、UN Women を介した本 LEAP プロジェクトを通じ、パナマを含めた中米移民女性の保護への支援を実施するものです。

日本は今後とも、パナマ政府、コスタリカ政府、ホンジュラス政府を含む各国や UN Women 等の国際機関と緊密に連携して、中米地域の非正規移民やジェンダー平等の課題解決に寄与するため、取り組んでいく考えです。パートナーたちの協働の努力によって、中米の非正規移民なかならず女性や子供たちが「人間の尊厳」を堅持し希望をもって生きていけるようになることを祈念して、私のご挨拶とさせていただきます。